

# 夕張川かわら版

「夕歩道」とは  
夕張川と流域住民をつなぐ  
川の道です

# 夕歩道

平成17年初秋

其の参

## ヤリキシナイ川で魚とりだあ～！ ついでにゴミもとったぞお！



↑護岸工事が終わった場所から上流へ向かうと...



↑妹尾先生から網や道具などの説明を聞きませう。左はこの活動を企画運営した夕張川なんでも探検隊の千葉隊長と高橋さん。



↑「きゃー!!!」悲鳴(?)をあげる子ども達。でも恐がったのは、この時だけで。



↑なんと、ゴミがたぐさん浮かんでいたあ～。



↑川のそうじのスタート! けっこうみんな楽しそう。



↑子ども達がゴミを広い、上で大人が集めませう。(三田村さんも活躍中)



↑たくさんエビがとれました。「とれたあ! とれたあ!」「かっばいせんだあ!」



↑ずぶ濡れの子ども。川の中はもう大騒ぎさ。



↑ガキ大将のような妹尾先生の指導で、隠れている魚を上流から追い込みませう。



↑妹尾先生に魚の説明をしてもらいました。



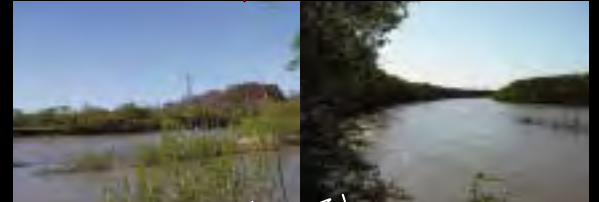
↑最後にみんなで記念撮影「楽しかったあ～」バシャ!

ついでに拾った  
ゴミといっしょに、  
バシャ!

### 由仁小学校の子ども達と ヤリキシナイ川魚類調査&ゴミ掃除大作戦!

●日時/平成17年6月23日(木)  
●場所/由仁町ヤリキシナイ川下流(夕張川合流部より少し上流)  
●参加者/フロンティア由仁・由仁町立由仁小学校・栗山町いきもの里づくり推進協議会・夕張川なんでも探検隊

### 夕張川クイズ問 ここはどこでしょう?



※答えは一番最後です

### 川と牛蒡

由仁町を流れるイヤリキシナイ川(ヤリキシナイ川)周辺は、かつて染物業が営まれていたと伝わっています。由仁むかし話「渡し守」の中で、イヤリキシナイ川と染物業について、次のように書かれています。  
「天正初めに由仁で染物業を一生懸命に営んでいた頃のこと。(中略)今のテラスワース1パリの西向かいの四条線の角に大きな防火用井戸があって、そこに一坪位の流し台があったので、普通のもの(染物)はその井戸水を使っていた。だが大きなものは桶では洗えないのでイヤリキシナイ川に持って行って作業したものです。その時、鱒が何匹も寄ってきて剥がれた大きな糊を食べるのを見かけたものでした。」  
川となりに暮らした頃のお話。今も川のほとりに立つと、職人が豪快に布を放る手さきが目にさく気がしませんか?



染物に関する説明看板。(由仁町温水プールそば)



ほらっ、漕げたま。さあ、出航だ! ライフジャケット、カッコいい? 魚がお勉強。川にはいるんが生き物が寝んでるね。魚がいたよー! 投網の見学、妹尾先生スゴイ! まだ焼けないかな～

### これがほくら学び遊び場! 夕張川塾

「夕張川なんでも探検隊」の主催で、栗山町と由仁町の小学4～6年生23名、大人30名が参加して、「夕張川塾」がはじめて開かれました。メニューは川下り、魚類調査、川泳ぎです。川はどんなところなのか、どんな危険があるのかをしっかりと学んで、夕張川から長沼頭首工までの約5kmを12艇が約2時間かけて完走!

普段、見下ろしている風景とは違う、鳥や魚が生き活きと暮らす夕張川を五感いっぱい感じた子ども達は、ひと回りたくましくなりました。お母さん達も食事のお手伝いも手伝ったり、みんなが参加できる「夕張川塾」が、恒例行事として定着するように、これからも育てていきます。

平成17年7月28日(木)

### 夕張川の生き物たちへイケボタル

ハサンベツでホタル鑑賞会!!

7月28日(木)の「夕張川塾」の後、「夕張川なんでも探検隊」有志が集まって、栗山町ハサンベツ地区に棲むへイケボタルの鑑賞に繰り出しました。ハサンベツ地区は雑木林で囲まれ、住民が中心になって自然と農業と人が共生する里山づくり・ふるさとの川づくりをすすめています。ホタルの卵を増やすこともテーマのひとつです。

### 知ってます? ホタル前線

成虫が交尾のため発光する時期は、地域によって異なります。一番早いのは九州で5月上旬、下旬になると北九州から中国・四国、6月中・下旬には関東・東北と列島を北へ進み、北海道は6月下旬から8月頃です。

### 北海道を代表する、へイケボタル

日本のホタルは46種ほど、そのほとんどは発光しません。ゲンジボタルとへイケボタルは、成長の段階で生活の場所も変え、一生発光し続けるめずらしい習性を持っています。

北海道に生息するホタルは、カタモノミナミボタル、オハボタル、スジカロボタル、そして一番多いのはへイケボタルです。へイケボタルは、羽の上の二つの赤い模様が両脇に寄り、体長7～11mm、ゲンジボタルに比べてすんぐりと小さいのが特長です。流れの緩やかな小川や田んぼに棲み、カワニナをエサに幼虫期を水中で過ごします。変態を繰り返して、陸に上がって成虫になると、水しか飲まず、1～2週間て死んでしまいます。卵から数えると寿命は約1年。エサ不足で2～3年かかって上陸する幼虫も数多くいます。

※参考情報「夕張川マルわかり辞典」(坂根山ホタル飼育施設)

### 第8回「夕張川流域会議」報告

待ちに待ったバスツアーです

今年初めての「夕張川流域会議」は、バスツアーも合わせて行いました。委員のみならず、夕張川中流の長栗橋下流、馬追橋上流、阿野呂川合流点などを見学。長栗橋下流から見えるクッタリチャヤ、馬追橋上流のうっそうとした中州など、暮らしのとなりあつて自然の姿を残す夕張川の素顔を真近で見ることができました。

場所を移し、現地視察や夕張川の川づくりについて、活発な意見を交換。市民団体等の活動予定や今年度の「夕張川環境調査」について報告し、次回会議日程を確認して終了しました。



### 意見交換会

くりやまカルチャープラザEki  
栗山町中央2丁目1番地  
電話:0123-73-3333

現地見学を終えて意見交換。

### 「川の楽習会」に参加しませんか?

9月に南幌町の子ども達を中心に川の楽習会が開かれます。楽習会では、魚獲りや川の施設の勉強などが予定され、「夕張川流域会議」の委員さんをはじめ、小学校の先生や子ども達といっしょに川遊びをします。楽習会の模様は次号「夕歩道」で紹介!

「川の楽習会に参加したい! 夕張川で遊びたい!」という方、お気軽に江別河川事務所にご連絡ください。お待ちしております。

江別河川事務所 調査課 電話:011-382-2358

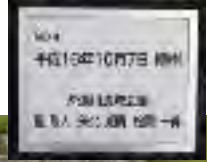
### 「平成17年度の活動予定」

～夕張川の総合学習の推進について～

- 平成17年度 川の楽習会 9月下旬  
\*場所 夕張川清観床止め、長栗橋下流など  
\*内容 川の見方、川の流れ方、川の歩き方など
- 川の学習手引書  
\*目的 川で遊ぶための基礎的な習志、技の紹介など、川遊びの入門書作成  
\*編集会議日程 平成17年9月～平成18年2月 3回程度

### 平成17年7月の状況

- ◎苗の生育が見られる。
- ◎植樹プレートも問題なし。



植樹プレートには植えた人の名前が。



ヤマモミジ

### 平成17年5月の状況

- ◎植樹した時に比べて苗の目立った生育はない。
- ◎苗が一本引き抜かれたようになっていた。
- ◎生態学的混播・混植法の岡村先生曰く、「問題なし。これから生育する」
- ◎植樹プレートも問題なし。



サワシバ



## 清幌床止の植樹生育レポート

今年の植樹箇所の状況と昨年の植樹状況。

昨年の10月7日の第6回夕張川流域会議にて、夕張川高水敷（南幌町清幌床止）に植樹した苗達の様子を、5月と7月に調べてきました。

## 南幌町に伝わる治水感謝の祈り 第1回 治水感謝式

平成17年7月1日(金)  
南幌町リバーサイド公園

治水感謝祭は毎年7月1日、夕張川治水に尽力した保原元二、本間藤市、長谷川源之丞を讃える国内でもめずらしいもので、町内の義経神社で行われてきました。しかし、清幌橋の架け替えに伴って義経神社を南幌神社に合祀したため、義経神社の近くにあった保原元二像と彰徳碑はリバーサイド公園管理棟近くに、また、10人の殉職碑は南幌墓地（南幌町元町4丁目）に移されました。

そして今年、リバーサイド公園に新たに治水感謝の碑が建てられ、名称も治水感謝式として、感謝の儀は続けられることに。式には関係者50人ほどが参列して、除幕式、治水感謝祭実行委員会会長の三好富士夫南幌町長のあいさつ、そして保原元二氏のご子孫はじめ関係者による献花をもって終了しました。

続いて、拓心会による南幌太鼓が披露されました。昭和63年に作られた南幌太鼓は、明治31年の大洪水の土の積み、濁流のようすを表現したもので、その勇壮な響きは、かつての夕張川と人々との歴史を熱く伝えてくれます。



三好南幌町長や保原氏の子孫による除幕。



勇ましい南幌太鼓を披露。



保原元二像の前でNHKの取材を受けるご子孫。

## Yu-paroからの情景

われらが夕張川は4艇48名が真っ青な空の下、清幌床止めを出発。アオサギやカワセミ、イソシギ、トビ、マガモなどなど、たくさんの鳥との出会いを繰り返し、水上の旅を満喫しました。

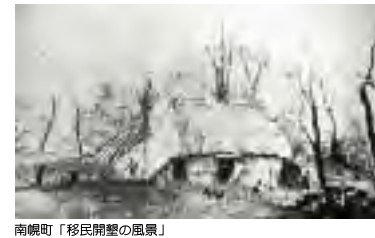


## 夕張川の下流を下る 第7回 石狩川流域交流フェスタ (第3回あおぞら大学) 平成17年7月23日(土)

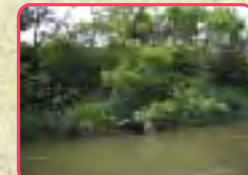
南幌町の清幌床止めから江別河川防災ステーションを目指して、Eボートで夕張川下流を下りました。石狩川や支流域5市3町2村の住民達が12艇(約120人)のEボートでそれぞれの川を下り、江別河川防災ステーションに集まり、河川環境をみんなで考える「石狩川流域交流フェスタ」。今年は3団体の子ども達の自然体験活動を発表した「あおぞら大学」も行われました。

### 幌向原野をいく

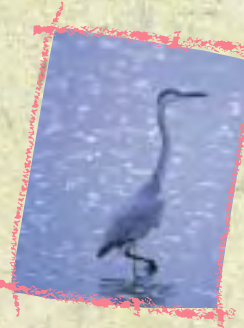
不毛の地と呼ばれた約3,000haにも及ぶかつての泥炭地も今は恵みの地に。大地と、心を、潤し続ける夕張川...



南幌町「移民開墾の風景」



水面まで茂る木々や緑



組立て式で便利なEボート



「天気いいね〜」声かけ合ってゴールを目指す



緑をかきわけ乗船。「みんな乗った？」



※資料提供NPO法人 水環境北海道



まっすぐ伸びる白橋・美原大橋

### 千歳川合流点〜江別河川防災ステーション



江別の歴史を刻む王子製紙



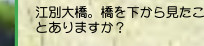
江別河川防災ステーション。ゴールは目の前



橋脚に引っかかった流木



カワセミの営巣地。



江別大橋。橋を下から見たことありますか？



夕張川の旅の終焉、石狩川と合流

### 幌向川合流点〜石狩川合流点

### 夕張川橋(高速)〜幌向川合流点



水中に手を入れたいし、見てみたいよね〜



左側が幌向川。夕張川に交わる幌向川の最終地

### 栗幌橋〜夕張川橋(高速)



夕張川橋。川下りでは橋が目印

### 清幌橋〜栗幌橋



「天気いいね〜」声かけ合ってゴールを目指す



緑をかきわけ乗船。「みんな乗った？」

### 川は今も心をつなぐ道

開拓期、人と物を運ぶため、外輪船や川船が忙しく往來した河岸のまちへ。今、新たな志が川をつなぐ



やったあ〜ゴールだ！